

# よいち 余市河口漁港ふれあい漁港漁村整備事業

受賞機関 北海道小樽土木現業所

はじめに

本格的な200海里時代を迎え、沿岸漁業の重要性が増すなか、水産業は漁業生産量の減少など厳しい状況に直面している。このため、水産業の健全な発展に向け、漁村の総合的な振興や都市・漁村交流などの取り組みが重要となっている。

余市河口漁港がある北後志地区においても、水産資源の減少、磯焼け、担い手の高齢化や後継者不足など深刻な課題を抱える。しかし、水産業は、古くはニシン漁で栄えた歴史を持ち、地域経済を支える重要な産業のひとつである。

本事業は、この歴史ある水産業の新たな振興方策の構築と、豊かな自然環境や札幌を中心とした道央経済圏に隣接する地域特性を活かした親水空間の創出により、地域の活性化を目指した漁港の建設事業である。

事業概要

漁 港 名：余市河口漁港

事業期間：平成元年度～平成13年度

事業費：9,361百万円

事業の特徴

余市河口漁港は、水産業を核とする地域の総合的な整備開発を目指す「北後志地区新マリノーション地域基本計画」に基づく施策展開の重要な拠点のひとつとして整備した。整備にあたっては、次の基本方針に沿って取り組んだ。

- 未来に向けた水産業振興方策の構築
- 北方漁労文化・歴史の保存と伝承
- 都市住民とのふれあいの場と機会の創出
- 快適な生活環境の向上

新たな漁港では、余市川河口部を利用した旧漁港での係留施設や用地の不足が解消され、漁船とプレジャーボートの棲み分けも行われ、安全かつ効率的な漁業活動が可能となった。さらに、過去ニシンの豊漁により地域産業を支えてきた水産業の活性化に向け、新たな事業展開が可能となった。

また、釣りや自然景観を楽しめる親水防波堤、緑地広場、フッシャリーナ（プレジャーボート保管施設）など、海とのふれあいの場を提供する空間は、地域住民はもと



親水緑地の利用状況

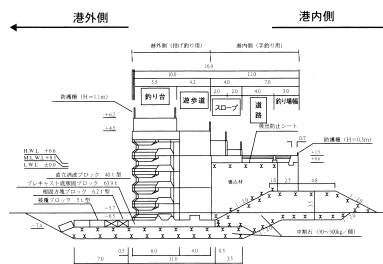


フッシャリーナ(ボートヤード)の利用状況

より、海洋性レクリエーションを楽しむ都市住民等に広く利用されている。

漁港の一般市民への積極的な開放にあたっては、漁業活動に支障が生じないように施設配置や構造を工夫するとともに、施設のバリアフリー化、自然景観への配慮、安全対策施設の設置を検討したうえで事業を実施した。

完成した余市河口漁港は、つくり育てる漁業の推進の拠点として、漁業・観光と協調しながら海洋性レクリエーションの振興による地域の活性化を図るの拠点として大きな効果が期待されている。



東防波堤構造図  
(釣り・散策・眺望ができる親水防波堤)



余市河口漁港に導入した機能のゾーニング図